



新創記念特別展 第6部

能面の心・装束の華 一物語をうつす姿

Noh Masks and Costumes: Tales of Human Sentiment

2010年6月5日(土)~7月4日(日)

[休館日] 月曜日

根津美術館では新創開館を記念する特別展（2009年10月より8回開催）の第6部「能面の心・装束の華一物語をうつす姿」を2010年6月5日(土)~7月4日(日)まで開催いたします。

能は、謡や鼓の調べとともに、能面と能装束を身につけた演者によってストーリーが語られていきます。本展では室町時代から江戸時代の男、女、鬼、妖精の能面、またそれぞれの能面に合った能装束など、約30点を展覧します。

演者は、若い女の面には赤色の入った華やかな「紅入」の能装束を、中年以上の女の面には赤色の少ない「無紅」を組み合わせて年齢の違いを表現します。「小面」は十代の愛らしく初々しい女性の面です。「紅薄縹段鉄線花唐草模様唐織」は、紅色と薄縹色を段替わりに染めた絹地に鉄線花と唐草模様を織り出した装束で、これを「小面」と組み合わせ、演目「杜若」に登場する若い女性を表現します。また若い男面「中将」は、伊勢物語の主人公、在原業平を写したといわれ、平家の公達の役にふさわしく「白地青海波扇面散模様縫箔」のような優美な装束をまといます。このほか「猩々」や「源氏物語」の悲劇「葵上」に用いる面と装束を展示し、能面と能装束が演出する、能ならではの幽玄な美の世界をご紹介します。

展示室1



小面（権野）井関河内作
江戸時代 18世紀
根津美術館蔵



中将 出目洞水作
江戸時代 18世紀
根津美術館蔵



紅薄縹段鉄線花唐草模様唐織
江戸時代 18世紀
根津美術館蔵



白地青海波扇面散模様縫箔
江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

| 能とは

平安・鎌倉から江戸時代までは、能は「猿楽」あるいは「猿楽の能」と呼ばれていました。「猿楽」は、奈良時代に「雅楽」や「舞楽」とともに中国から伝来した「散楽」を源流としています。「散楽」は、滑稽な芸や物まね、曲芸、奇術などの大衆芸能でした。「猿楽の能」は、室町時代三代將軍・足利義満の時、観阿弥、世阿弥らの出現によって芸能として完成します。謡をうたいながら、囃子に合わせて演じるシテ（主役）中心の歌舞楽で、多くは仮面をつけて演じられるきわめて様式化された芸能です。江戸時代には幕府の式楽（儀式に用いられる音楽や舞踊）となり、さらに形式化されました。

[併設展示]

展示室 2

源氏絵コレクション



平安時代、11世紀初頭に成立した源氏物語は、その後の日本の文化に広範な影響を与えました。源氏物語の名場面を描く「源氏絵」が数多く制作され、能にも翻案されています。

特別展「能面の心・装束の華」の関連企画として、展示室2では源氏絵を特集します。

源氏物語朝顔図
土佐光起筆 江戸時代 17世紀
根津美術館蔵



源氏物語図屏風(左隻) 若菜下 住吉具慶筆 江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

展示室 5

拵と刀装具 - 龍獅堂コレクションの精髓

根津美術館の刀剣・刀装具より「龍獅堂コレクション」を展示します。龍獅堂は、光村印刷株式会社の前身を設立した光村利藻氏(1877-1955)の号。明治42年(1909)、同氏が蒐集した約三千数百件のコレクションの中から、その中核をなす千数百件が初代根津嘉一郎の所有となりました。

今回は花や動物などさまざまなテーマに分け、コレクションを代表する作品約50件を展示します。



牡丹に蝶図鐺 加納夏雄作
江戸・明治時代 19世紀
根津美術館蔵



螺鈿波文脇指拵 明治時代 19世紀
根津美術館蔵

ホール～展示室 3

仏教彫刻の魅力

ガンダーラや中国の石彫、日本の木彫の名品をご覧ください。

地蔵菩薩立像
鎌倉時代 13世紀
根津美術館蔵



展示室 4

古代中国の青銅器

コレクションの一翼を担うのは、中国・河南省侯家荘出土の伝承をもつ殷時代の青銅器です。饕餮がくっきりとあらわされた尊や盃の名品20件を展示いたします。

饕餮文卣
中国・殷時代 前12-11世紀
根津美術館蔵



展示室 6

水月を楽しむ

六月は、水月(水無月)とも呼ばれ、田に水を引く月という意味で、雨の多い季節にあたります。舟や手桶をかたどった茶道具、茶の染みを雨漏りに見立てた茶碗をご紹介します。

雨漏茶碗 銘 優曇華
朝鮮・朝鮮時代 16世紀
根津美術館蔵



※優曇華：仏教経典では3000年に一度咲くといわれる想像上の花「優曇華の花待ち得たる心地して深山桜に目こそ移らね」と源氏物語の「若紫」に出てくる。

[関連情報]

◆第6部 特別イベント

「能装束をまとう ―演者が語る能の魅力」

観世鍔之丞氏に、能装束の着付けの解説とともに、能の見方や魅力をお話していただきます。

日時 6月26日(土) 午後2時から午後3時30分

場所 根津美術館 講堂

定員 70名

講演 九世 観世鍔之丞 (かんぜ てつのじょう) 氏

〈プロフィール〉 観世流シテ方。八世観世鍔之丞静雪(人間国宝)の長男として東京に生れる。名は暁夫。伯父観世寿夫、および父に師事する。4歳で初舞台。2002年、九世観世鍔之丞を襲名。鍔之丞家の当主として、また鍔仙会の新棟梁としてこれからの能界を担う存在として期待されている。2008年度日本芸術院賞受賞。重要無形文化財総合指定保持者。社団法人鍔仙会理事長。



観世鍔之丞氏 演目「杜若」

〈申し込み方法〉 往復はがきに住所、氏名(返信面にも)、電話番号を明記のうえ、〒107-0062 東京都港区南青山6丁目5番1号 根津美術館「第6部展特別講演会係」にお申し込みください。2010年6月5日(土)締切(当日消印有効)

- ・参加希望者1名につき1枚の往復はがきでお申し込みください。
- ・応募者多数の場合は抽選となります。
- ・聴講は無料ですが、入館料をお支払いください。

◆ギャラリートーク

展示室1 「能面の心・装束の華」 6月18日(金)、7月2日(金)

展示室2 「源氏絵コレクション」 6月11日(金)、6月25日(金)

- ・いずれも午後1時30分より約45分間 イヤホンガイドを使って行います。
- ・入場料を別途お支払いください。当日先着30名様に限らせていただきます。

[開催概要]

- 【展覧会名】 「能面の心・装束の華 ―物語をうつす姿」
- 【開館期間】 2010年6月5日(土)～7月4日(日)
- 【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
- 【休館日】 毎週月曜日
- 【入館料金】 一般1200円(1000円) 学生1000円(800円)
- * ()内は20名以上の団体料金
 - * 身障者手帳提示者および同伴者1名は団体料金
 - * 小・中学生以下は無料
- 【前売券】 一般1100円 学生900円
- * 4月24日(土)～5月23日(日) 「国宝 燕子花図屏風」展 開催期間
 - * 美術館受付にて販売
- 【アクセス】 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道) 駅下車
A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、
B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
- 【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山6丁目5番1号
- 【お問合せ】 TEL 03-3400-2536 (代表)
<http://www.nezu-muse.or.jp>

[展覧会リリース、広報画像はホームページからもダウンロードできます]

【リリースPDF】 <http://www.nezu-muse.or.jp/jp/press/>

【広報画像ダウンロード】 <http://www.nezu-muse.or.jp/jp/press/download/>

[リリース・広報のお問い合わせ]

担当：鎌倉/朝倉 TEL(学芸・広報/直) 03-3400-2538 / 携帯電話(鎌倉) 080-6622-2536

FAX 03-3400-2436 MAIL press@nezu-muse.or.jp